

会議概要附属機関等の名称 安曇野市上下水道事業経営審議会

- 1 会議名 令和4年度 第2回 安曇野市上下水道事業経営審議会
- 2 日時 令和4年8月2日(火) 午後2時から午後4時30分まで
- 3 会場 安曇野市役所本庁舎 全員協議会室
- 4 出席者 保尊委員、大江委員、臼井委員、土肥委員、黒岩委員、赤沼委員、
猿田委員、加々美委員、中村委員、二木委員
- 5 市側出席者 堀内上下水道部長、丸山経営管理課長、中田上水道課長、山越下水道課長、
豊田管理係長、重野維持係長、曾山工務係長、中嶋庶務担当係長、
青嶋庶務担当係長
- 6 公開・非公開の別 公開
- 7 傍聴人 0 人 記者 0 人
- 8 会議概要作成年月日 令和4年8月12日

協議事項等

○会議の概要

- 1 開会
- 2 会長挨拶
- 3 議事
(1) 安曇野市水道ビジョン改定(案)の説明
(2) 水道ビジョン改定(案)に対する質問及び意見の提出依頼について
- 4 その他
- 5 閉会

○議事の概要

- (1) 安曇野市水道ビジョン改定(案)の説明
(資料に沿って事務局より第1章から第3章まで説明)

<質疑>

委員：給水人口の表を見るとビジョン計画最終年度(R9)と認可目標年次(R12)で明科地域のみが増加しているのはなぜか。

鉄バクテリアについては、注釈をつけて説明を入れた方がよい。

経営状況の図を見るとR2の数字が極端に少ないのは補助金が原因か。供給単価と給水原価がH24とR3を比較すると開いているが理由と影響はあるのか。

事務局：給水人口については、H29.3月に安曇野市水道事業経営変更を行った際に報告した数字を使っているが、再度確認したい。

鉄バクテリアについては、対応したい。

経営状況については、R2の数字はお見込みのとおりコロナによる減免の関係である。供給単価と給水原価は、R1の料金改定の影響ではないかと思う。

委員：供給単価と給水原価が開くとどうなるのか。

事務局：後ほど回答します。

委員：一日最大給水量の図を見るとR4に増えているが、これは大規模開発によるものか。

事務局：R3までは実績値ですが、R4以降は経営変更を行った際に提出した認可値であくまでも推計値である。

委員：管路の老朽管が増えていて、策定も改定も有収率の低い明科地域の管路を更新する必要性が高まっているとなっているが、事業の優先順位をどう考えているのか。第3次も同じような考えでいくつもりなのか。硬質塩化ビニル管の採用を少なくすると記載されている一方で、図の管種別の割合では増えているように思うがいかがか。

事務局：有収率については、再度検討を行い次回までに報告したい。H28以降に水道施設台帳の見直しを行ったため、結果として増えてしまったが、今の割合が現状に近いものである。

委員：明科地域の漏水が多いようだが、事業の優先度をどうするかというのが問題だと思うが、もっと具体的な対応策をどこかに記載した方がよいと思う。そうでなければ、第3次計画も同じようなことになると思う。

委員：塩化ビニル管は色々なタイプのものがあるが、良いものも含めて悪いというような表記はあまりよくないのではないか。それぞれの場所に合ったものを採用していくのがよいと思うがいかがか。

事務局：このままですと最後まで終わらないので、後ほど詳しく説明する改定(案)に対する質問と意見を提出していただく用紙にて提出していただきたい。まずは、説明を最後まで終わらせたい。

(資料に沿って事務局より第4章から第6章まで説明)

<質疑>

委員：ビジョンの作り方(整理の仕方)ですが、方策と取組みを同じような内容であるが分けて記載されている。整理の仕方をどのように考えているのか。

事務局：方策は目標で今までとほぼ変わらない、目標に対しての達成状況と今後の取組みをその後に別建てにしている状況である。

委員：提案ですが、方策は取組みであると思うので、別立てにせず合わせてしまっても問題ない。検討いただきたい。

委員：非常用電源設備の整備について、大規模な停電時など燃料の補給をどのように考えているのか。

事務局：既存の燃料ですと24時間程度、大規模な停電になると燃料の補給をしなければ持たない。現在上水道で協定等はしていないが、災害だと市と燃料を扱っている組合と協定はあり、一部停電であれば市内業者から供給を受ける。具体的な提供方法はないが計画を立ててやっていく予定である。大規模災害については、日本水道協会を通じて、長野県の水道事業体から応援してもらうことになっている。

委員：非常用電源設備の設置状況の表を見ると、光配水池の記載がないがどうなっているのか。また、雷が落ちて給配水が出来なくなる状況が起きているが、全ての施設に非常用電源設備は設置できないのか。

この地域は地震が課題、真々部配水池には濁度計だけでなく、ろ過装置も設置されていると思うが、全てに同じようには設置できないのか。

市の計画としてスリム化があると思うが、技術者等職員の不足により、過度の負担が掛かっているのではないか。その点をビジョンに盛り込むことはできないのか。

委員：非常用電源設備の設置については、重要なことであり、主な投資計画の表にも記載されているので、もっと具体的にどこかに文面で記載してほしい。

事務局：非常用電源設備について、ある程度の数で計画はしているが設置順等定まっていないため、記載の仕方については検討したい。

人員不足については、そのとおりであるがそれをどういった形でビジョン載せるかは検討したい。

現在真々部配水池に設置しているろ過装置は、非常時用に整備されたもので普段は動かしていない。切り替え作業のための人員の問題や普段はきれいな水にろ過機を付けることによる費用負担等を考えながら常設か仮設か検討していきたい。

委員：特に豊科地域において濁りが予想されるため、全地域でなくてもある程度絞った地域には検討し、課題として取り上げた方がよいと思う。

委員：人員不足は、技術者が足りないのか全体として足りないのか。

事務局：全体として不足しているが、特に技術者が足りない。事業量に対して足りていない。

委員：いくら計画をしても実施するのに支障が出る、間に合わないということか。

事務局：支障が出るというか、今計画していることしか出来ない。何でも出来るわけではなく、人員に合わせた計画をしている。

委員：人員不足で事業が出来ないというのは残念なことなので、これからのことも考えて何とかしていただきたい。

委員：R1の水道法改正の中にも、人材確保と育成がある。全国的な問題なので、ビジョンにも取り入れた方がよい。計画を達成するためにも必要なことである。

委員：管等の更新基準を見直したことにより、更新費用が随分変わったように思うが、投資費用が上がっているのはなぜか。

地震で給水が停止した場合に、復旧にどれくらい時間がかかるのか。どのような対応を考えているのか等はどのようにするのか。

事務局：費用が上がった点については、製品の値上がり等を加味している部分もあるが、アセットマネジメントを前回の簡略型から標準型に変更して検討し直したことによるもの。

災害等に対する計画は別途作成しているため、そちらで対応していきたいと考えている。

委員：防災計画についても、コロナにより中止したとなっているが、今後はwithコロナを考え計画していく必要がある。

(2) 水道ビジョン改定（案）に対する質問及び意見の提出依頼について （資料に沿って事務局から説明）

<質疑なし>

○その他について

委員：R4.7.20付けの読売新聞にて、宮古島市の断水に係る裁判の記事が掲載されていた。（記事のコピーを配布）

このような判決が出ているが、安曇野市の給水条例等どうなっているのか。また、このような時代なのでより一層慎重に事業等進めていただきたい。

事務局：当市の条例も宮古島市と同じような内容である。このような判決が出たので、県からも照会がきている。足並みを揃えて対応していきたい。

事務局から次回の審議会開催について説明

事務局：閉会の前に先ほど保留となっていた、供給単価と給水原価の開きについて

て、給水原価が下がり開きが出るのは経営が安定している状態。給水原価が下がっている主な原因は、原価に含まれる費用の企業債利息が減少しているためである。ただ、維持管理経費は増加しているので、これ以上開くことはないと思われる。

以上